

製品名: モノメチルヒストン H4 (Lys20) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe03937**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	メチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質を含む液体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:11 kDa;Observed MW: 11 kDa

抗原情報

遺伝子名	H4C1
別名	H4K20me; H4; H4/n; H4F2; H4FN; FO108; HIST2H4
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P62805
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成メチル化ペプチド

背景

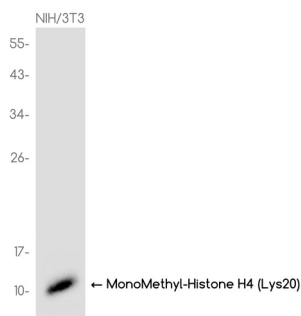
ヒストンの翻訳後修飾 (PTM) は、クロマチン構造を調節するエピジェネティクスの重要なメカニズムであり、「ヒストンコード」

と呼ばれます。アセチル化、メチル化、リン酸化、新規アシル化などのヒストンの PTM は、転写因子やその他のエピジェネティック制御因子へのクロマチンのアクセス性に直接影響を与え、ゲノム安定性や遺伝子転写などを変化させます。ヒストンのメチル化は、主にコアヒストンのアミノ末端にあるリジン残基とアルギニン残基で起こります。ヒストンのメチル化は、ヒストン中のどのアミノ酸 (Lys または Arg) がメチル化されているか、そしていくつのメチル基が付加されているか (Lys のモノメチル化、ジメチル化、トリメチル化、Arg のモノメチル化、ジメチル化、非対称メチル化) に応じて、遺伝子の転写を増加または減少させます。リジンのメチル化は主にヒストン H3 Lys4、9、27、36、79、および H4 Lys20 で起こり、アルギニンのメチル化は主にヒストン H3 Arg2、8、17、26、および H4 Arg3 で起こります。ヒストンメチラーゼ (HMT) とヒストンデメチラーゼ (HDM) は主要な調節因子です。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



モノメチルヒストン H4 (Lys20) 抗体を使用した 3T3 溶解物中のモノメチルヒストン H4 (Lys20) のウエスタン プロット分析。